

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

タンザニア連合共和国

ムゲラ地域開発プログラム(TZA-183537)



学校で休み時間にサッカーを楽しむアトゥマニ君(12歳)



家族とともに。末の弟はADPの支援で建設された診療所で生まれました

チャイルドストーリー

村に診療所ができ、 家の近くで医療サービスを受けられるようになりました

アトゥマニ君が暮らすムゲラ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域には、以前は診療所がありませんでした。医療サービスを受けるためには、3つの村を抜けて長距離を歩かなければならなかったと言います。出産も自宅で行うのが一般的でしたが、出産の際に命を落とす女性や新生児も多くいました。しかし、ADPの支援でアトゥマニ君の村にも診療所ができ、母親は末の弟を診療所で無事出産することができました。

「ADPからは石けんや学用品を支給してもらいました。また、学校には教科書や机が提供され、僕だけでなく学校の

友だちみんなが助けられています」と話すアトゥマニ君。両親はADPの研修で近代的な農業技術を学び、実践しています。この結果収穫量が増え、年間を通して十分な食料を得られるようになり、農作物を売って現金収入を得ることもできるようになりました。

「ADPの研修に参加して、今まで村で普通に行われていたFGM(女性器切除)が女の子にとっていかに良くない習慣だったのかを知りました。僕の家族だけでなく、地域全体に良い変化をもたらしてくれているADPの支援に感謝しています」と若いアトゥマニ君は堂々と話してくれました。

生計向上プロジェクト

マンゴー栽培や養蜂を通じて、貧しい農民の生計向上に努めています

地域住民や地方政府との協議の結果、農家の収入向上のためマンゴー栽培に注力しています。ムゲラ地域の土壌や気候条件がマンゴー栽培に適していること、またダルエスサラームのような都市でマンゴーの需要が高いことが理由です。政府農業担当官の指導やほかの農園への視察から学び、地域の農

民たちは100エーカーの土地でマンゴー栽培を始めました。また、養蜂に取り組むことを決めた農家には178個の改良型巣箱を支給しました。蜂蜜は農作物に比べて単価が高く、養蜂家がまだ少ないという利点があり、生計向上の手段として期待されています。

\$ 毎月の収入が**8倍**以上になった農家も



マンゴーの苗木を植えている様子



蜂蜜を販売するセムフリさん（写真右）

ワールド・ビジョンがこの地域で活動を始めて以来、農業や養蜂の技術指導など多くの支援を受けています。伝統的な方法で養蜂をしていたときは、わずかな蜂蜜しか採れなかったのですが、改良型の巣箱を使っている今では多くの量を得ることができます。毎月の収入も9ドルから75ドルまで増え、子どもたちの教育費も払えるようになりました。昔は考えられなかったことです！

保健衛生プロジェクト

村落保健員を通じて母子保健の改善を支援しています

支援地域内の村々で活動する村落保健員を訓練し、彼らが地域住民（特に子どもたちや妊産婦）の健康管理をよりよくできるよう支援しています。村落保健員は住民に対して、幼い子どもたちの命を奪う様々な病気（マラリア、肺炎、急性下痢など）とその予防、対処に関する知識を普及しています。また、妊婦への地道な啓発活動の結果、地域内の診療所の一つでは2013年の350人から750人と倍以上の妊婦が産前健診を受けるようになりました。このうち273人の妊婦は自主的にHIV検査を受け、HIVウィルスの母子感染の予防にも努めています。



村落保健員は各家庭を訪問し、健康管理に関する助言を行っています



産前健診を受診した妊婦数 **350**人(2013年) → **750**人(2014年)



支援地域の女性のインタビュー

近代的農法と染物を学んで実践し、収入が増えました

Q. 家族構成を教えてください。

夫と6人の子どもたちと暮らしています。

Q. ADPのどのような活動に参加しましたか。

活動に参加してどのような変化がありましたか。

農業の研修に参加し、十分な間隔を空けて作物を植えること、殺虫剤を使うこと、肥料を使うこと、野菜も育てることなどを学びました。以前は1エーカーあたり5袋程度のトウモロコシや豆しか収穫できませんでしたが、学んだことを実践したところ、10袋のトウモロコシと6袋の豆を収穫することができました。また、染物を学び、自分で染めた布を売る小さな店を始めることができました。

Q. 将来の夢を教えてください。

店を大きくし、農業にももっと力を入れて収入を増やし、家族と親戚を支えていきたいです。



自分で染めたパティキ（服用の染め布）を見せるダンギロさん(36歳)



ADPマネージャー・インタビュー

Q.どのような仕事をしていますか。

ADPの責任者として、支援活動の計画を作り、計画通りに活動が実施され、子どもたちの健やかな成長が実現しているかを確認しています。政府機関に必要な報告をすることも仕事の一つです。

Q.活動の中で大変なことはありますか。

ADPでは地域の人々向けの様々な研修を行っています。研修に参加して知識を得ても、その知識を実践する人は必ずしも多くありません。研修に参加した後の実践を促すよう努めています。

Q.ADPで働く原動力となっているものは何ですか。

神様に愛されている貧しい子どもたちのために働くことができることが、私の喜びであり原動力です。



ムゲラADPマネージャー ゼバダイア・マアング (49歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



支援によって子どもたちが健やかに成長できる地域へと変わりつつあります

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

会計報告

TZA-183537

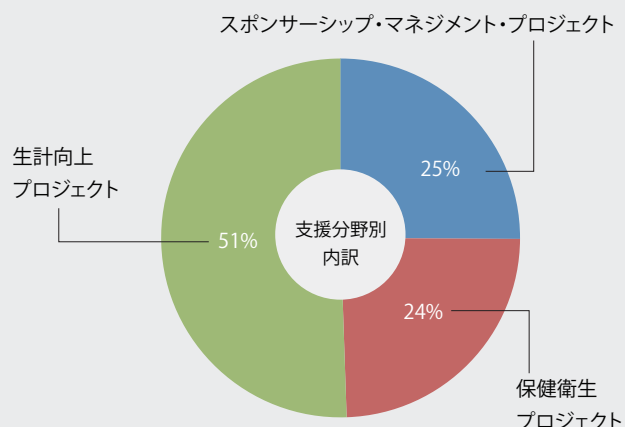
収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

プログラム支援額

チャイルド・スポンサーシップ	47,632,777
当期支援額	47,632,777
前期繰越金	-121,726
プログラム支援額合計	47,511,051

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	11,493,976
保健衛生プロジェクト	11,169,361
生計向上プロジェクト	23,156,895
プログラム支出額合計	45,820,232
次期繰越額	1,690,819



2014年度より、農業プロジェクトの名称が生計向上プロジェクトへと変更となりました。また、2014年度の生計向上プロジェクトの支出額には、2013年度にて終了した指導者育成プロジェクトの精算額(20,460円)を含みます。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
e-mail：dservice@worldvision.or.jp